



平成 25 年 12 月期 第 1 四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成 25 年 4 月 30 日

上場会社名 株式会社ペッパーフードサービス 上場取引所 東  
 コード番号 3053 URL http://www.pepper-fs.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 CEO (氏名) 一瀬 邦夫  
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部 総務部長 (氏名) 猿山 博人 (TEL) 03 (3829) 3210  
 四半期報告書提出予定日 平成 25 年 4 月 30 日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成 25 年 12 月期第 1 四半期の業績 (平成 25 年 1 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25 年 12 月期第 1 四半期	1,321	3.0	35	265.0	38	—	25	—
24 年 12 月期第 1 四半期	1,283	2.6	9	△40.1	△5	—	△13	—

	1 株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25 年 12 月期第 1 四半期	910.43	905.89
24 年 12 月期第 1 四半期	△550.56	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25 年 12 月期第 1 四半期	1,633	317	18.9
24 年 12 月期	1,538	288	18.2

(参考) 自己資本 25 年 12 月期第 1 四半期 309 百万円 24 年 12 月期 280 百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24 年 12 月期	—	0.00	—	0.00	0.00
25 年 12 月期	—	—	—	—	—
25 年 12 月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成 25 年 12 月期の業績予想 (平成 25 年 1 月 1 日～平成 25 年 12 月 31 日)

(%表示は、通期は対前期、第 2 四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1 株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第 2 四半期(累計)	2,580	1.7	77	173.3	83	542.6	48	—	1,691.27
通期	5,492	4.8	267	156.6	275	191.2	209	—	7,367.20

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 4. その他

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 第1四半期より減価償却方法の変更を行っており、「会計方針の変更を会計上の見積りの変更と区別することが困難な場合」に該当しております。詳細は、添付資料P3「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（2）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年12月期1Q	28,389株	24年12月期	28,369株
② 期末自己株式数	25年12月期1Q	一株	24年12月期	一株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年12月期1Q	28,373株	24年12月期1Q	24,364株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期財務諸表 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	6
第1四半期累計期間 .....	6
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	7
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	7
(5) セグメント情報等 .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する定性的情報

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、政権交代に伴う金融緩和期待等を背景に円安が進行し、デフレ脱却・経済成長への期待の高まりから大企業を中心に企業収益は、改善の兆しがみられ、雇用情勢も回復傾向にあるものの、欧州債務問題等の世界経済の動向については引き続き注視していく必要がある状況です。

外食産業におきましては、消費者の節約志向に多少の変化はみられたものの、個人消費は底堅い状況が続いております。

こうした状況のもと、当社は「ペッパーフードサービス大改革元年」として、新規業態開発を始め新規メニューの導入等を全社一丸となって取り組んでまいりました。また引き続き安心・安全な商品を提供できる体制の強化にも努めてまいりました。

これらの結果、当第1四半期累計期間における業績は、売上高1,321百万円（前年同期比3.0%増）、営業利益35百万円（前年同期比265.0%増）、経常利益38百万円（前年同期は5百万円の経常損失）、四半期純利益25百万円（前年同期は13百万円の四半期純損失）となりました。

セグメントの業績は次のとおりです。

#### ① ペッパーランチ事業

ペッパーランチ事業につきましては、昨年9月にオープンしたUENO 3153店に続く2号店として、「ペッパーランチダイナー」をヨドバシAKIBA店内に「ペッパーランチ」からの業態変更としてオープンいたしました。さらに、昨年11月にオープンした「92's (クニズ)」の2号店をイオンモール高崎店内に「ペッパーランチ」からの業態変更としてオープンし、ペッパーランチダイナーと共に多店舗化を開始いたしました。また、フードコートタイプの店舗にサラダバーを採用した「東京634バーグ」を新業態の店舗としてイオンモール春日部店内にオープンいたしました。マーケティング活動につきましては、メニュー施策の見直しとしてステーキ&ハンバーグのメインメニュー以外であるデザートメニューを充実させ、パンケーキやワッフル等の導入を図り、客単価の向上と幅広い顧客層の取り込みに努めてまいりました。

海外におけるペッパーランチ事業では引き続き好調に推移しております。新規出店に伴う機器等の売却、ロイヤリティ収入などの売上高は50百万円（前年同期比57.6%増）となりました。

この結果、当第1四半期累計期間における売上高は974百万円（前年同期比2.5%増）、営業利益は148百万円（前年同期比23.5%増）となりました。また、新規出店数は9店舗（うち海外6店舗）であり、ペッパーランチ事業全体の店舗数は257店舗となりました。

#### ② レストラン事業

レストラン事業につきましては、ステーキ業態「炭焼ステーキくに」、とんかつ業態「こだわりとんかつ かつき亭」、ハンバーグ業態「炭焼ビーフハンバーグステーキくに」、ヤングファミリー層を対象としたサラダバー付き業態「太陽の家族くに」の4業態において、業態や立地条件ごとにメニュー政策を行い顧客の満足度向上に努めてまいりました。

「炭焼ステーキくに」では、牛たん定食メニューを新たに両国店、新小岩店の2店舗に導入することで販売店を4店舗に拡大し、新たな顧客層の囲い込みに取り組みました。また異業種交流会「美味しいステーキを楽しく食べる夕べ」は、赤坂店、両国店、武蔵村山店の3店舗限定による月1回の継続的な開催により、ブランドイメージの向上を図ってまいりました。

「こだわりとんかつ かつき亭」では、引き続き宅配出前強化の取り組みにより、新たな顧客獲得に努めてまいりました。

この結果、当第1四半期累計期間における売上高は340百万円（前年同期比4.2%増）、営業利益は19百万円（前年同期比29.2%増）となりました。なお、レストラン事業全体の店舗数は16店舗となっております。

#### ③ 商品販売事業

商品販売事業につきましては、「とんかつソース」、「冷凍ペッパーライス」及び「冷凍ハンバーグ」の販売において新規顧客の獲得目指し、ネット販売を中心に行ってまいりました。

この結果、当第1四半期累計期間における売上高は6百万円（前年同期比20.8%増）、営業損失は1百万円（前年同期は2百万円の営業損失）となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

当第1四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べて94百万円増加し1,633百万円になりました。これは主に、現金及び預金が116百万円増加したこと、建物が19百万円増加したこと及び敷金及び保証金が36百万円減少したことによるものです。

負債合計は、前事業年度末に比べて65百万円増加し、1,315百万円となりました。これは主に、借入金が95百万円増加したこと、未払金が26百万円増加したこと、未払法人税等が28百万円減少したこと、未払費用（流動負債・その他）が10百万円減少したこと、社債が21百万円減少したこと、受入保証金が14百万円減少したこと及び長期未払金（固定負債・その他）が19百万円増加したことによるものです。

純資産は、四半期純利益を25百万円計上したことなどから、前事業年度末に比べて29百万円増加し、317百万円となりました。また、自己資本比率は、前事業年度末に比べて0.7ポイント増加して18.9%となりました。

(3) 業績予想に関する定性的情報

平成25年4月11日に発表いたしました第2四半期累計期間及び通期の業績予想につきましては、現在のところ変更はありません。詳しくは平成25年4月11日付「業績予想の修正及び四半期業績見込みに関するお知らせ」を御参照下さい。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更）

当社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期会計期間より、平成25年1月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

なお、これによる当第1四半期累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年12月31日)	当第1四半期会計期間 (平成25年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	110,364	227,228
売掛金	280,952	283,049
商品	23,589	16,033
貯蔵品	20,252	20,117
繰延税金資産	5,500	5,500
その他	143,519	133,958
貸倒引当金	△4,956	△6,575
流動資産合計	579,222	679,311
固定資産		
有形固定資産		
建物	580,570	604,737
減価償却累計額	△323,064	△327,684
建物(純額)	257,505	277,052
その他	526,589	532,631
減価償却累計額	△426,330	△428,666
その他(純額)	100,258	103,965
有形固定資産合計	357,764	381,018
無形固定資産	12,496	16,795
投資その他の資産		
敷金及び保証金	563,243	526,772
その他	45,175	46,066
貸倒引当金	△20,356	△18,011
投資その他の資産合計	588,063	554,827
固定資産合計	958,324	952,641
繰延資産		
社債発行費	1,301	1,080
繰延資産合計	1,301	1,080
資産合計	1,538,847	1,633,034

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年12月31日)	当第1四半期会計期間 (平成25年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	444,582	447,832
短期借入金	47,200	143,000
未払金	88,752	115,585
未払法人税等	38,870	10,573
賞与引当金	—	2,499
資産除去債務	14,627	7,565
その他	175,877	164,002
流動負債合計	809,910	891,058
固定負債		
社債	84,000	62,400
受入保証金	304,550	289,651
繰延税金負債	6,418	7,395
資産除去債務	43,231	43,096
その他	2,596	22,262
固定負債合計	440,795	424,805
負債合計	1,250,705	1,315,864
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	707,000	707,618
資本剰余金	663,556	664,174
利益剰余金	△1,090,281	△1,064,450
株主資本合計	280,275	307,343
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△220	2,059
評価・換算差額等合計	△220	2,059
新株予約権	8,087	7,766
純資産合計	288,141	317,169
負債純資産合計	1,538,847	1,633,034

(2) 四半期損益計算書  
(第1四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年3月31日)	当第1四半期累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)
売上高	1,283,517	1,321,797
売上原価	646,790	649,291
売上総利益	636,727	672,506
販売費及び一般管理費	626,971	636,897
営業利益	9,755	35,608
営業外収益		
受取利息	81	52
受取賃貸料	1,296	1,296
協賛金収入	1,650	2,703
その他	875	666
営業外収益合計	3,904	4,719
営業外費用		
支払利息	1,398	237
社債利息	735	527
貸倒引当金繰入額	16,580	—
減価償却費	94	350
その他	341	290
営業外費用合計	19,149	1,406
経常利益又は経常損失(△)	△5,490	38,921
特別利益		
固定資産売却益	3,197	—
その他	400	—
特別利益合計	3,597	—
特別損失		
固定資産除却損	2,232	1,773
特別損失合計	2,232	1,773
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△4,125	37,147
法人税、住民税及び事業税	9,513	11,479
法人税等調整額	△225	△162
法人税等合計	9,288	11,316
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△13,413	25,831

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

前第1四半期累計期間(自 平成24年1月1日 至 平成24年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注1)	四半期損益 計算書計上額 (注2)
	ペッパーランチ 事業	レストラン事業	商品販売事業			
売上高 外部顧客へ の売上高	951,252	326,930	5,334	1,283,517	—	1,283,517
計	951,252	326,930	5,334	1,283,517	—	1,283,517
セグメント利益 又はセグメント 損失(△)	120,400	14,773	△2,675	132,498	△122,743	9,755

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△122,743千円は、各報告セグメントに配分していない  
全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期累計期間(自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注1)	四半期損益 計算書計上額 (注2)
	ペッパーランチ 事業	レストラン事業	商品販売事業			
売上高 外部顧客へ の売上高	974,833	340,520	6,444	1,321,797	—	1,321,797
計	974,833	340,520	6,444	1,321,797	—	1,321,797
セグメント利益 又はセグメント 損失(△)	148,675	19,081	△1,650	166,107	△130,499	35,608

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△130,499千円は、各報告セグメントに配分していない  
全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社はこれまでステファンングリルのセグメント区分を「レストラン事業」としておりましたが、当第1四半期  
会計期間の組織変更に伴い、「ペッパーランチ事業」に変更しております。これに伴い共通経費の配賦につい  
ても一部見直しております。

なお、前第1四半期累計期間に開示している金額は、変更後の区分方法により組替えたものを記載してあり  
ます。

また、会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更に記載のとおり、法人税法の改正に伴  
い、当第1四半期会計期間より、平成25年1月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法  
に基づく減価償却の方法に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に  
変更しております。なお、これによる当第1四半期累計期間のセグメント利益に与える影響は軽微であります。